

04.新アクロポリス博物館



新アクロポリス博物館は、1976年を最初に数度のコンペを経て、建てられた。設計者に選ばれたのはバーナード・チュミであり、パリのラビレット公園の設計者としても有名である。建築自体はパルテノン神殿より南東に300m離れた場所に位置している。建物構成は基礎階・中間階・最上階の3層構成であり、基礎階は100本のコンクリート柱により、発掘された遺跡の上部に浮いている。床面はガラス張りになっており、遺跡を見下ろすことができる。中間階にはスロープで上がっていき、古代からローマ時代の展示を移動しながら見学できる。途中には休憩できるカフェやショップが併設されており、見学の合間に休憩することができる。最上階がメインになっており、ガラスボリュームの長辺がパルテノン神殿と平行になるように角度が振られている。資料と実物を常に比較してみることができ、パルテノンとの対話を楽しむことができる。

短い時間ながら、多くの古代遺跡を収容する新アクロポリス博物館では、古代ギリシャ建築の持つ数学的な戦略と歴史との対話を可能にする神話性を感じ取れた。

(西澤 章太)